滿州日報

油豆行情（中曆十二月十七日）
青豆價錢六吊三百七十文至六吊二百文
合豆價錢五吊六百文至五吊四百五十文
小米價錢七吊六百文至七吊二百七十文
紅糧價錢五吊五百文至四百五十文

全 九ダース 同五圓
全 全 同四圓
赤味噌 大樽 同九圓三十錢
札幌麥酒 四打入 同九圓八十錢
蜂印香竄葡萄酒 全 同二十二圓五十錢

全 煉 全 同二十三圓
筍 二打半 同八圓五十錢
梨 四打 同十一圓
桃 全 同九圓五十錢
人形ミルク 全 同十二圓五十錢

粟 お 小四百五十本入 同十圓
全 六千二百本入 同十六圓
澤鶴 正味四斗四升入 十七圓
サッポロビール 九圓七十錢
（宅合名會社調査）

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office, Newchwang.
Telephone No. 29.

料 一ケ月以內 一長期連揭減價面議

發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社（電話二九番）

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議
從減 每張四百文

特別廣告
▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓
本支店出張所
横濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫動 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺
電話 十番 支配人室 百八番 事務室
横濱正金銀行牛莊支店

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所
大連市磯岐町三百三十八號 日華運輸公司
遼陽 遼陽倶樂部 谷口今朝太郎

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL ENGINEER.

Plans and specifications made to order.
ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

醬油釀造販賣
●樽詰 ●瓶詰 ●桝賣
御小賣共精々廉價に販賣仕候御進物として至極体裁宜しき特製四合入瓶詰一打箱入も有之候間多少に拘はらず御用被仰付度奉希上候尚御用の節は下名の內何れにても電話にて御申付被下候はゝ直に御屆け可申上候
綏定門街 東肥洋行（電話一七號）
二官街 東來醬園（電話百二號）

三井洋行
啓者本行開創在中外通商各埠己有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均省物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請移臨是荷
●精製白砂糖新入荷物あり
倉庫部
今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は全所へ御照會被下度願上候（電話百二十八番）

宅合名會社
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤鶴印并營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋綫子洋襪鏵表貨物倶全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請屡臨爲幸
總司理人 田中賴之助謹白

○○東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並匯兌銀錢彙代客經理買賣租船裝運事宜營口東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷 總司理人 葉亮卿謹白

○○東永茂
機器油房在營口創辦油榨生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

○○西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外 士商賜顧者請認明招牌決不致悞 本主人敬啓

○○仁裕號
係裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

○○恒有長
本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價值格外從廉克己并另設銀爐包鑄銷以應急需久爲 中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

○○元茂盛
油坊買賣元荳油荳餅雜色糧石以及代客購辦雜貨布疋一概發行裝運沙船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

○○德商 瑞生洋行
啓者本行由外洋運來金山松木大小方子厚薄板片以及樓板并有道木性實堅固貨高價廉賜顧者乞至本木廠面議
營口西街潮滿西本行主人啓

○○代代木烟公司
本行專售 日本官造紙烟 星象牌（斯達）櫻花牌（捷利）百合花牌（利利）均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）清香撲鼻佳美適口而價值極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

○○田中牛莊分莊
啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東洋緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面閱是幸
田中牛莊分莊謹啓

森病院
一診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時
一往診 午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任産婆大道しけ子）
院主 森 鐈
醫長 鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
（營口綏定門シップ商會東街）
川喜鐵工場

西海洋服店
歐米各國最新流行形
永世街一四一（森病院三軒目）

寫眞 永清
奉天府 大南門裡路西

●島田洋服店●
東營口郵便局東隣
●同支店●
新民屯停車場前

一關內外盧漢鉄道貨物運輸（但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候 但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱）
一海關手續
一鈔關手續（但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱）
一船舶荷物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大清通運公司 營口支店

隆慶公司
開設在東關門外自有碼頭恬豊木局以西南近馬路德記木局以北發售庫山大小塊柞子貨美價廉裝卸舟車極便凡賜顧者請認明招牌庶不致誤謹啓

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

各種材木 廉價大販賣
塩川商會
營口永世街二本町

○○和泉洋行
本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價值格外從廉克己、凡 中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

飯塚工程局 材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久己馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克已凡 中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞 本主人啓

材木 荒物 販賣
秋田洋行
營口永世街第一八四號平野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

○○日商 東來醬園
本醬園開創在營口双橋子南有年係請大日本著名工師自造日本醬油所造醬物料專選上等麥豆壘經沙漏之水寒熱適度加意製出故其色麗質淨味美氣芳可以供上等烹飪之用其價值甚廉非尋常市油所得而及蓋用市造之油烹物之費多而醬梅之効少若用此油則醬味調和必諳不特于衞生之道受益不少兼爲厚生利用之妙品也賜顧紳商請嘗試之立知本醬園所言非誇張之談矣 本園主人謹白

代理 道勝銀行
啓者本行代理道勝銀行匯兌以及押款借款等項格外公道如蒙賜顧請移玉本行帳房面議可也
德商 瑞記洋行代理人謹啓

貸金業
確實なる擔保品には精々勉强安利を以て御相談に應す
南永世街百二十七號
質屋 富田茂治

東京電報
(一月十日特別通信員發)

●日清協約の發表　去る六日樞密院の議決を經たる日清協約只今愈ゝ發表せられたり

●載澤一行の來朝　清國出洋大臣載澤一行は十五日門司着港の豫定なり

●ダニロフの歸國　露國俘虜受取委員長ダニロフ中將は來月初め謁見仰付けられ同月中頃歸國の筈

●駐佛大使の內定　佛國駐劄特命全權大使には栗野愼一郎氏任命せらるゝことに內定す

●樞密顧問の新任　侯爵伊藤博文男爵小村壽太郎男爵金子堅太郎の諸氏は孰れも樞密顧問官に任命せられたり

北京電報
(一月十日特別通信員發)

●威海衛と獨乙公使　北京駐紮獨乙公使は威海衛を英國より取戻さんことを外務部に勸告し運動頗る力め居れりとの說高かし

倫敦電報

●兩黨領袖株の演說　兩党の領袖株は昨夜各ゝ演說を試み主として財政及び清國勞働者の問題に就て論議し併せて愛蘭土自治問題に論及せり、ジョン．バースン氏はヲルビイに於てバルフオ氏はマンチエスターに於て演說し共に清國勞働者問題を論議し前者は自由党は清國勞働者制度を變革せむと企てしにあらすと云ひ後者は自由党は之れを變革するの勇なしと云へり

●英國總選擧の終了期　英國の總選擧は市部は一月十七日を以て郡部は一月廿七日を以て結了すへし

●通貨改善案の提出　通貨改善案は米國議會に提出されたり
(以上一月九日發)

●北海炭礦の公債發行　北海道炭礦鐵道會社は一千萬圓の五分利附擔保公債を發行す

●モロッコ問題と獨國の報告書　獨國政府の發表せしモロッコ問題の報告書は佛國政府の報告書を反駁する爲めにあらすして寧ろ獨國の立場を確めむが爲めに特に注意して作成したるの形跡を存す．該報告書に依ればモロッコ國王は獨國公使に對して佛國政府はモロッコに於て歐洲列强中の指揮者たらむことを要求する旨確言せりと云ふ該報告書は之れを證明せむが爲めに種々の事實を示せり、又た曰く佛國の所謂改善策なるものは全然モロッコ國を制御せむと欲するに在りと獨國首相ビユーロー公は獨國がモロッコ會議を主張したるは列强の利益を防衛せむが爲めなりと云へり
新聞紙は該報告書を以てモロッコ問題の穩かに解決せらるへきを示すものとなせり、されど大西洋岸に於ては獨猶國の意圖に疑念を抱けり
(以上一月十日發)

雜報

●新年の政界　議會は二十日まで休會なり殊に平和克復の新年といひ代議士中には近縣旅行中のもの、歸省中のもの又は屠蘇機嫌未だ醒めさるものあり政界の風雲は至て平靜の姿なるも其裏面には多少の暗潮なきにあらず政進兩黨の領袖連は何れも地方の旅行を避け聽て現はるべき政界の雲行に對し大に警戒を加へつゝあるもの、如し而も兩黨の態度は既に自ら決定せるものあるを以て從て議會の解散といへる不安の念は今や全く各代士の頭より取り去られ此上如何にせば新內閣に接近し若くは政權に近づき得るかを竊に考究しつゝある位の有樣にして彼の大同俱樂部の如きは新年の回禮を名として陰に陽に政進兩黨の間を割かんことに勉めつゝありまた政交俱樂部も態度未だ鮮明ならさるも大同俱樂部と步調を共にするが如き形跡は毫もなく或は結局憲政本黨に接近するに至るならんかといふものあり

●過去の海軍大臣　內閣が幾更迭し幾變遷すとも其海陸兩大臣の地位は閥族の據て以て死守せる本據にして殊に海相の椅子は薩閥の一手專賣とも謂ふべく其海軍卿と稱せし際に於て勝榎本の二氏が就職せし以來海相を更ゆること十指に垂んとせるも嘗て薩閥以外より其椅子を占めたる者無く即ち川村純義氏を筆頭とし西鄉從道大山巖(兼攝)樺山資紀仁禮景範山本權兵衛氏等にして此內川村氏は二回海軍卿と爲り西鄉氏は三回而して山本氏の如きは則ち八ヶ年の久しき其地位を保てり以て海軍部內如何に薩閥の根蔕の鞏固なりしかを推すべし然るに今や西園寺內閣新に成りてより三十年來拔くべからさる舊慣を打破し東北なる齋藤氏が一躍して其地位を占むるに至れるは以て時運の變遷を見るに難からさらんか但し齋藤氏の薩化せる東北人なることは論無しとなり

●列國の東洋艦隊　列國東洋艦隊の現在勢力左の如し
▲英國　巡洋艦五隻、砲艦四隻、河用砲艦八隻、驅逐艦八隻、外に豫備艦數隻
▲米國　戰鬪艦二隻、巡洋艦四隻、砲艦五隻、海防艦五隻
▲露國　裝甲巡洋艦一隻、巡洋艦七隻、砲艦一隻、驅逐艦十六隻
▲佛國　裝甲巡洋艦四隻、巡洋艦一隻、砲艦一隻、河用砲艦五隻、驅逐艦八隻、潛水艇數隻
▲獨乙　巡洋艦二艘、砲艦四艘、河用砲艦四艘、驅逐艦二艘
▲清國　巡洋艦六艘、砲艦三艘
▲伊太利　裝甲巡洋艦一艘
▲墺太利　巡洋艦二艘
▲葡萄牙　砲艦一艘

●駐清各國公使　目下清國に駐在せる各國公使の人名左の如し
日本　內田康哉
英國　サトウ
米國　ロックヒル
獨乙　ムンム
佛國　ドパイユ
墺國　ロストホン(代理)
伊國　バロリ
西國　ドカアセル
荷國　スヘンタシアス
露國　ポコチロフ
白國　ドブレリ(代理)
墨國　アルタツラ(代理)

●張家口等の開市期　張家口は京張鐵道落成後三四年にあらされば開市せず其他庫倫、伊犂、哈克圖とも種々の理由あり張家口の後開市すべしと此頃前記各地方を開放するとの噂は無根なりといふ

●石炭の沒收高　日露開戰中帝國軍艦の爲めに拿捕せられたる船舶にして石炭を搭載し捕獲審檢所に於て沒收と確定せし高はカーヂフ炭其他の外國炭八萬六千三百六十三噸日本炭七千八百二十五噸にして合計九萬四千百八十八噸なり代價見積り百三十六萬五千八百七十圓餘なりと

●釜山港改良工事　目賀田財務顧問は釜山稅關擴張のため新に同地に約六千坪の埋築地を造りその東南隅より外面は防波石堤、內面は鐵製片棧橋の突堤を築造し以て釜山市街との間に內港を設けこれを艀船の貨物積卸場とし又別に吃水二十尺の船舶二艘を同時に繫留するに足る防波築堤(延長百四十間、內面を鐵製の片棧橋とす)を築造しこれを鐵道線に連絡せしめ且稅關用建物及び保稅倉庫を建築する計畫にて本年早々起工する旨發表せりといふ

●勅選議員の任命　勅選議員に數名の空位あり早晚補缺任命を見るへしとは豫て傳へられし所なるか今回愈ゝ波多野、田、關、得能の諸氏孰れも貴族院議員に勅選せられたりといふ

●威海衛問題　清國政府は不日英國と威海衛問題に關する交涉を開始すべき筈なるが元來英國側にては威海衛の爲め每歲費す所五十萬乃至六十萬弗に上り居れども英國貿易保護の上に格別の利益を收め能はさるのみならす現にフヰシャー提督の海軍根據地計畫には威海衛を脫しあり去れば威海衛還付は早晚何等かの形式を以て事實となりて現はるべしと傳へらる

●モリソン博士の歸期　倫敦タイムスの北京通信員モリソン博士がポーツマウスに赴きし以來華盛頓のスモーレー氏に代り同地の通信員たるべしとは嘗て報せし處なるが當地の外國人間に傳へらるゝ所に依れば右は風說に止まり同博士は來る三月頃再び北京に歸朝すべしと云ふ

●三大將進任　寺內陸相は大將に陞任し同時に大島久直及び大迫尙敏の兩中將も大將に進任せらるべしといふ

●淸官敍任
任閩浙總督　端方
任湖南巡撫　龐鴻書
任湖南布政使　英端
任湖南按察使　顏鐘驥

●戰後の日本
(大隈伯の談話)

日露戰爭に於ける我國の位地は著しく大陸戰爭に於ける英國の位地に似通へり、當時の佛國かく平和の敵と目指されしこと恰も今日の露國の如く、當時の英國か國際間に於ける威重は殆んと今日の日本と彷彿たりき然るに海陸の幾征戰は遂に戰鬪の化身たる拿破倫を潰滅に歸せしめ、英國は茲に居然として歐洲列國の上に頭角を抽んするを得たり、一昨年來の日本は宛然是れ當時の英國にあらすや、沙河奉天の戰はカートルブラー、ウオターローの役に比すへく旅順口外對馬水道の海戰は以てナイル、トラフアールガーの海戰に比すへし、此くて海陸併せ得たる戰勝の威力は滿韓に於ける暴露の跳梁を欲束して極東の平和茲に保障せられ眇たる島帝國一躍して世界强國の伍班に入れり、歷史は繰返すと云へど斯く迄の相似は稀有ならむ．論者庶幾くは彼此期間に長短の別有りと云ふこと勿れ．交通運輸の進步は往時の十年を以て今日の一年に擬す、決して非倫に非す而して兩國の相類似せるは單に戰時に止らす戰後に於て更に一段の相似點を發見し得るなり、噫ゝ日露戰爭を終結せる我日本は將に是れ大陸戰後の英國と同一地位同一國情に立てり矣

大陸戰爭に依つて贏ち得たる英國の名譽は餘りに多大の大價を提供したるものなりき．赫々たる戰勝の名譽は數十年に亘りて英國々民をして克く非常の負擔に堪へしめたるも、一旦平和克復し人心漸く沈靜に歸するや國力の疲弊綱紀の弛廢殆んと收拾すへからさるの極に達せるあり、議院政治の腐敗は產業革命の機運と抱擁して社會狀態の紛亂時代思潮の混雜恰も鼎の覆れるか如く其間內閣は幾度か轉覆し政令幾度を革變し遂に穀物條例の廢止、選擧法の改正と爲り數十年の星霜を經て漸く秩序の恢復を得るに至れり、之を外面に表現したる事迹に就て觀れは千態萬狀容易に其眞相を捕捉し難しと雖も予は其原因を求めて戰後個人生計の困難に陷りしと幷に戰後政治思想の一變せるとの二點に歸せんと欲す

以上は單に英國に特有の現象なりと云ふを得す、戰時幷に戰後負擔の加重に伴ふて國民生活上の困難を生し、戰時中冥々の裡に蘊蓄せる政治的不平か戰爭の熄止と共に勃發し來るは何れの國何れの時代に於ても免れさる所なりと雖も．戰爭の範圍と犧牲との大なるに從ひ其結果として生し來る所も自然大ならさるを得す、且夫れ經濟上政治上革新の機運之と相牽聯するに於ては戰後の變調亂脈は時に或は其極度にまて驀進するに至る蓋し免れさるの數ならん歟、大陸戰後の英國は其著しき事例にして、我國の現狀は恰も當時の英國を再現せんとするもの、如し
(未完)

●撫順の開放　豫て噂ありたる炭礦地として有名なる撫順は愈ゝ一昨十日より開放の旨其筋より當地軍政署へ達しありたる由今後該地に居住營業をなさんと欲する邦人は制規の手續を經て當軍政署へ願書を差出せば直ちに許可を得べしと云ふ

●露軍逆襲の一週年祭(本日)　去年本日は恰も敵の驍將鐵騎將軍が遼西の中立を侵して不意の奇襲を我營口に行ひ全埠十萬の市民を驚かしたる最も記臆すべき紀念日なり當時我は遼西の中立を恃みて守備甚だ厚からず彼は衆我は寡勢敵せさるのみならず我征露軍の生命を繫ぐべき糧食は多く此地に集積せらる我れにして一たび營口の守を失せんか則ち全軍の勝敗は全く其地位を轉倒せしむるも未だ測り知るべからずと爲す而も我守備兵の勇悍なる善く戰ひ善く拒ぎ遂に强敵を擊退して今日あるを致せり其功亦偉ならずや本日適ゝ其第一週年に當る乃ち本日午前十一時(日本時間)を期し其戰死將卒の靈魂を弔せんとし牛家屯墓地に於て最も盛大なる最も莊嚴なる追悼一週年祭を行はんとす擧洵に當を得たりと謂ふべし有志の士は官と無く民と無く軍人と無く軍屬と無く奮て參會し以て發起者の志を濟し併せて忠魂をして地下に瞑するを得せしめんことを因に同日參拜の諸氏は午前十時(日本時間)迄に領事館前に至らば同所よりトロツクに便乘し直に式場に赴き得へしとなり

●安東縣の在住邦人戶口數　最近の調査に依れば安東縣の戶數は新市街四百八十六舊市街二百六十三計七百四十九戶にして人員は男二千五百八十九女一千零十二計三千六百零一人なりといふ

●藝妓酌婦現在數　當地に於ける藝妓酌婦現在人員は藝妓百三十人酌婦二百二十人合計三百五十人にして今最も多數の時代を示せば藝妓の二百〇五人酌婦の四百五十四人にて前者は九月中頃の人員後者は八月下旬の人員にて其後當地の不景氣又は各地の開放に連れ自然移住するもの多く十二月中頃には殆と藝妓酌婦にて二百四五十名なりしが新年を宛込み又々一時に增加したるものにて昨今軍政署にて許可を受けたる者は總じて內地より新に來營したる者なりと云ふ

投書かで

▲元日より七日迄某亭の娼女を買ひ切り其上指輪やら衣裳なぞを彼れが言ふ儘に買ひ與へたる上大枚三百を以て身受の誤相談を始めた牛家屯の某〇〇殿あり新年匆々我々は羨ましい(燒餅生)▲僕が一昨夜九時過ぎ二本町を通行して居たが何處の馬鹿者か祇園閣の門前で支那人の人力車をヒツクリ返し得々として高坂洋行に駈込んだ野郎がある餘程風違ひの馬鹿男なり(實見生)▲滿〇公司の娘は此頃二本町の料理店を片つ端から飮み步き其上又非常の亂酒者で料理店の藝者仲居を無暗に苦しめるそうだ余り暴言を吐くと本根を素破拔くぞ(渡邊の一人)▲元日本館のおふみさんヘイカラ式に氣取り過ぎると新聞社へお前さんの身の上を知しますよ(穴知生)▲おしんさん日本行は暫く見合せですか四十面をさげて其上暴慾を望むと失敗しますぞ(浪人)

●瀛車中の强盜　瀛車中の强盜なぞゝは露國時代の事とのみ思ひしに我守備軍の下に斯る物騷の出來事ありとは扨ても油斷の爲らぬは滿洲なるかな時は去月の大晦日といふなる唯さへ人の氣の忙はしき混雜に取紛ぐれ同日午后五時遼陽發の汽車が海城を過ぎて間もあらせじ四名の馬賊らしきが同乘の支那人四十餘名を兇器もて脅かし二千餘圓の金子を奪ひて其儘汽車を飛び下り跡白波と消え失せたりとなん聞けば右の四名は遼陽より乘車せしものにて絕えず此間を往來し見知りの支那人も多ければ遠からず逮捕せらるべしとなり左るにても物騷なるは返へすゞゝも滿洲內地の旅行なりけり

●軍票男　一刻千金とはよく言ふ事なるがこれは扨ても馬鹿やゝ歎き話、永世街の中程に住居を構ふ陸軍御用達〇〇洋行と看板のある家の主人公今中某(卅九)と云ふ分別男、家には妻子ある身ながら扨てこの道ばかりは、まんざら厭でもなさものと見へ先々月の未友なる人に誘はるゝ儘に年甲斐もなく永世街の玉塚亭に登樓し藝者仲居對手の馬鹿遊びに氣も魂も有頂天となり少なからぬ金を消費して歸りしが病み付き年が年中泥臭き田舍育ちの娼を相手の二圓三圓の商內よりは兎に角何處か仇めく同店の抱おのぶと稱する白首の姿に迷ひ込み彼れが怪腕で鼻の下をプラマイト式に引き延ばすを言　なり次第に承知し妻君が此の寒空も厭はず日々儲けし金は左から右とれノブに注ぎ込み衣類やら何やらと既に其額三百餘圓も消費し尙も二本捧を垂らし繁げく通ふ其內におノブは最早よき頃と見て豆鉄砲であらぬ胘鉄砲を一發放ち左樣ならとも何とも云はず雲隱れせしとて今中は今更夢の如く恨めしそうにおノブの隱家を搜索中とは實に一割足らぬ話なり聞けば何でも此頃は遼陽とか奉天とかで相變らず水稼業をして居る由之れは三面子の誤注進

乙巳歲抄營口領事公署臥病枕上口占二首　手島海雪
滿身熱血冷如凝丈室紅殘一點燈茶味禪機空夢幻恍聽遼水憂流氷
潮花泛泛去還來蹉使孤帆凍不開一種醎酸參透了滿窻風雪嚼霜梅

春七句　木嬰
海越に山紫やはつ日の出
若水や河に聲なく星ひかる
初夢や蔭膳喰ひに歸りける
ぱさゝかの雜煮目出度祝ひけり
今更に項羽を學ぶ試筆哉
年男狐や化けし後つき
朝汐に網引く浦の霞かな

火車開行

▲上行車時刻表
車站名　開午點分　到午點分
新民屯至溝帮子　上六、〇〇　上九、五七
營口至山海關　上八、二〇　下六、〇〇
山海關至唐山　上一二、一八　下六、二〇
山海關至天津　上五、〇〇　下[illegible]

▲下行車時刻表
車站名　開午點分　到午點分
北京至山海關　上八、〇〇　下六、二〇
北京至天津　上一一、二〇　下五、四一
北京至[illegible]　下二、四〇　下八、三〇

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表
大連奉天間下り列車
驛名　發着時刻
大連　發午前　九、〇〇
金州　着　[illegible]　發　[illegible]
[illegible]

上り列車
驛名　發着時刻
遼陽　着午後　三、五〇　發　四、五五
大石橋　着　一〇、三二　發　一一、三五
金州　着翌前　二、二〇　發　三、一〇
大連　着　五、三二

大連旅順間下り列車 [illegible]

上り列車
旅順　發午後　一二、〇三
大連　着　五、三二
大石橋　發午前　一、〇〇
營口　着　一、五五

大營口線下り列車 [illegible]

天氣
營口地方　自昨日午後六時至本日午後六時
北の風晴し

雜報

●現時滿洲に於ける清國官憲

渤海漁長大清會典は滿洲に於ける行政制度を規定すること詳細を極む然れとも之を今日の現狀に照合せんか何人と雖もその異常の相違に驚かさるものなからん最近數十年間に於ける清國々勢の變遷は迚底大清會典の定規を以て律す可らさること〻なり朝に一變し夕に一化し遂にその實際に於て多大の變態を看るに至れり試みに之を奉天官衙に徵考せよ大清會典に規定せられたる官憲は單に虚位を擁するに過ぎすして其實權を握つて爲政の局に膺るものは所謂黒頭巾即ち委員にあらすや會典にある將軍の左右には副統都あり五部衙門の侍郎あり府尹あり學政あり將軍の下には知府あり知州あり知縣あり以て政務を統一すへく以て政治の進歩を計るへきなり然れとも其實際に於ては乃ち如何彼れ將軍なるものは斯る官制上の官憲を眼中に置かす專ら自家腹心の委員をして實權を振り廻はさしめつ〻あるにあらすや洋務局と云ひ交渉局と云ひ學務局若くは警務局と云ひ孰れも委員を以て其當局と爲せるにあらすや地方官に對しては時々委員を密派して施政を指揮し若くは監督せしむるにあらすや而して彼れ委員なるものは自巳の勢力を弄し眼中官憲の存在を認めさるか如き振舞を爲すものあり委員政治は之を舊式官憲に比すれは優勝なるや言を俟たすと雖も其弊害の大なる亦注意せさる可らす此點より看るも滿洲行政制度の改革は焦眉の急務と云はさる可らす左に大清會典に規定したる清國官憲の重なる官吏を記し以て讀者の參考に供せんか

(一)盛京省に於ける清國官吏

兵部尙書盛京將軍管理五部事務　趙爾巽
鎭守盛京等處副都統　宗室多文
鎭守興京等處副都統　宗室靈熙
鎭守錦州等處副都統　秀昌
欽命提督東三省學政翰林院編修　李家駒
奉天驛巡道二品銜　陶大均
興仁縣知縣　趙臣翼
承德縣知縣　林宗奇
遼陽州知州　陳衍庶
新民府知府　沈金鑑
奉錦山海等地方兵備道　文韞
營口海防同知　劉朝鈞
海城縣知縣　曹祖培
蓋平縣知縣　劉延珍
復州知州　吳胆義
開原縣知縣　孟憲彝
鐵嶺縣知縣　鮮俊英
錦州府知府　鄧嘉鎭
海龍府知府　孫壽昌
東平縣知縣　張兆駿
西豐縣知縣　德凱
西安縣知縣　王作賓
柳河縣知縣　張晉
鎭安縣知縣　張霽
彰武縣知縣　陶應潤
昌圖府知府　杏富禨
懷德縣知縣　范貴良
奉化縣知縣　桒禧
康平縣知縣　紹康
遼源州知州　許彭齡
奉天東邊兵備道　張錫鑾
岫巖州知州　馮樹銘
安東縣知縣　楊澍
寬甸縣知縣　秋桐豫
興京撫民同知　馬俊顯
通化縣知縣　馬祚凱
兆南府知府　徐之慶

●卅八年戰鬪經過

▲一月　一日旅順開城○二日旅順開城討議○二十五日黑溝臺の敵襲○二十六日黑溝臺攻擊○二十七日同上○二十八日同上○卅九日同上

▲二月　二十日榛子嶺占領○二十四日清河城占領○二十五日楊大人屯附近占領○二十六日五百牛彔占領

▲三月　一日姚千戸屯、松木堡子占領○同日四方臺大民屯、新民廳占領○二日周官堡、王秀臺占領○四日馬群鄲攻擊、蘇胡堡占領○五日馬群鄲攻擊、東孤嶺占領○六日懷仁縣占領馬群鄲攻擊・奉天街道、同西方激戰○七日東部漢城堡占領○八日馬群鄲、小集屯、八家子、三臺子占領○九日沙河全線追擊○十日撫順奉天占領

▲三月　八日優詔を賜ふ○十三日興京占領○十六日鐵嶺占領○十九日開原占領○二十一日棉花街占領

▲四月　四日鷗鷺樹占領○十二日蒼什占領○十五日英額城通化八家子占領

▲五月　四日八寶屯占領○二十五日四面城占領

▲六月　十日西營子、西平子占領○十一日英額城及び四方臺の逆襲○十六日四方城、雙岔子、羅船口、馬家堡占領○十九日楊木林子、柳條勾占領○二十日北韓軍活動○二十一日南山城子の敵襲、溝口子溝附近の戰鬪○二十二日英額城邊門南山子附近の戰鬪○廿六日輪城占領○二十九日大沙離占領

▲七月　六日璋項附近の戰鬪○七日樺太軍上陸○八日哥爾薩港占領○十二日樺太南部占領○二十四日アレキサンドロフ及び第三アルコフ占領○二十五日ヅーエ占領○二十七日日本海々戰○同日デルベンスコエ占領○同日ルイコフ占領、優詔樺太軍に下る○三十日樺太全部平定○同日優詔東郷大將に下る

▲八月　十四日二十里堡及昌圖附近の戰鬪○二十七日內大荒勾、楡樹嶺占領、南山城子附近の戰鬪

▲九月　十六日各軍休戰

●郵便切手の賣れ高

本邦郵便切手の種類を案ずるに最少一枚五厘より最多額一圓に至る十四種より成るものにして就中何れか最も需用多きかといふに去る三十六年度の計算に據れは實に左の如くなりといふ

	枚
三錢	一六五、一二六、一六〇
五厘	一三三、〇〇九、九七六
一錢	五三、三六八、四三一
二錢	三〇、七四四、五八六
十錢	二五、九〇五、〇九一
五錢	一七、一一九、五八四
十五錢	一六、四五一、六六〇
二十錢	一五、二四〇、二七〇
十五錢	三、〇八九、七一六
二十五錢	一、三六八、二四九
四錢	一、一七二、二八八
五十錢	五五七、九九〇
八錢	二七九、二七四
一圓	二〇一、〇五三

之を通計すれは四億九千七百萬二千七百五十九枚にして百七十萬八千四百五十圓三十一錢なりとす爾來最も長足の進歩をなせるは彼の私製葉書に貼用する一錢五厘切手の需用にして三十七年度に至りては前年度に比し四割三分を增して實に二千四百四十萬二千九十枚の多きに達したりといふ而して昨三十八年度の四月より十月に至る七箇月分一錢五厘切手の需用如何と見れは二千百八十四萬七千枚に上り之を一箇年に換算すれは三千七百四十五萬二千枚にして三十六年度に比して二倍二割八分の增加を示したるものなり是れ等は私製葉書即ち繪葉書に貼用せられたるものにして實に盛なりといふへし

●去るに臨んで滿洲爾に告ぐ

一軍人

滿洲の地たる到處鑛產に富み農產に豊に西は遼河の巨流を控へ東は鴨綠の大江に臨みて盡きさる水の利源を有し陸は北に西伯利の大鐵路を擁して歐洲と相連り沿海は安東、牛莊、大連の諸港を有し實に天賦の寶庫にして亦實に皇祖墳墓の地に屬す爾は斯る天與の富裕の地たるに爾が幾多の黎民は無智蒙昧に經て世界文明の大勢に瞬目せす依然其舊態を改めんとするの色なし爲めに此多幸多福の爾が社稷は隣强の窺窬する所となり近十數年來其自巳の自由發達は妨げられ爾の進運に要する殖產工業の利權は擅に其手に左右せられ禍害の及ぶ所延て我日出國の安危に及ばんとす同文同種唇齒輔車の我大和健兒何すれぞ夫れ之を視て座臥するに忍ぶへき乃ち爾を此厄急より救はんとし去歲戎衣相見にてより我健兒は能く寒暑に抗し困苦を凌ぎ饑乏に堪へ勇戰健鬪遂に二十有餘月にして全く暴露を北方に驅逐して膺懲の實を擧け爾が地は我が大和男の子の血肉を以て既に贖はれ茲に平和の天地は再創せられ黎民は愈ゝ是より太平の慶に賴らんとす今や吾人は任解けて我が母國に凱旋すと雖も尙爾の前途を憂へて止まず爾滿洲愛する友よ今より奮起一番活眼を開きて英斷爾が自衛自活進運の法を講じ我か健兒の行に鑑みて全く舊來の迷夢を破り權あり威ある强者となり吾人と相提携して共に倶に平和の鴻恩に浴せんことを今別を爾に告ぐるに當りて爾の反省を促す切なり嗚呼滾々たる遼河の流巍々たる長白の山千秋萬古長へに竭さず渝らず山川若し心ある願くば吾人が言を諒とせんかサラバ爾よ

廣告

特別室落成披露
座敷は凡て日本式取扱至極鄭重に可仕候間陸續御來宿あらんことを伏て奉希上候
金城ホテル　旅館部

藝妓仲居新來披露
今回藝妓酌婦無類の別嬪數十名伴れ參り候間不相變御引立の程奉願上候
但し凡て純粹の江戸つ子
金城舘料理部

藝妓仲居新來御披露
此度新たに內地より藝妓仲居十數名を連れ來り候間御光來の上御評判の程願上候　草々
營口　高砂ホテル
高砂（電話一四五）

御旅館兼待合所
並にうどん、そば
今般大々的勉強を以て右營業仕候間御乘降の都度御休泊被下度奉希候
牛家屯停車場前
若松家
各位樣

會席料理
營口警務課前南に入る
三日月

稻正宗
▲稻正宗ハ灘御影町河東本家ノ釀造ナリ▼

▲稻正宗ハ營口盛進商行ノ特約酒ナリ▼
▲京印醬油
▲木材
白毛布　毛蒲團
旅行鞄　帽子類
筆墨紙　罐詰類
酒保品一切
盛進商行

雜貨卸商
在營口元神廟街
關東公司雜貨部

雜貨
醬油　味噌　清酒
營口西北街
阪神組

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に消附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町
日本舘本店（電話百三十番）
奉天小西門外大十字街北入橋町
日本舘支店
各位樣

御旅館
天津
芙蓉舘
駐屯軍御用
並西洋料理
（電話第十一番）

奉天日本旅館
瀋陽舘
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開放全時二開業
奉天小西門外大街路北

大連東洋ホテル
●大連東洋ホテル　近民政署前通り兒玉町に在り　大連鐵道停車場附
●大連東洋ホテル　高地に建設しあるを以て大連市街の光景は一望の下にあり　水及大連港灣の山　四階建にして而も
●大連東洋ホテル　り內外貴賓の宿泊に適す　和洋客室の設備あ
大連東洋ホテル

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館　東京樓
店主　熊田兼次郎（電話百七十八番）
即席和洋料理　東京樓支店（電話四十四番）
西洋料理仕出し御需に應ず

北京
扶桑旅館
東單牌樓大街路西
客室清潔料理鮮新

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

滿洲大販賣所
池上出張店

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店ヘ御來店アリタシ
遼陽停車場前

謹賀新年
書籍、銘茶
賣藥、雜貨商
博文館營口代理店
大坂屋
今般永世街通平野町筋へ轉居し一層安價に販賣致候間舊に倍し御用命の程奉願上候

本家 日本東京神田鍛冶町 堀内大藥房
肺癆痰喘氣急傷風痰嗽小兒風邪病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかせ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

淺田飴 あさだあめ
特約大販賣
營口永世街 東瀛大藥房

標子 木板
發賣 料木 材木
營口青堆子
清水寧木局

澤亀は醇良にして風味芳烈なり

並ニ札幌ビール 朝日ビール
政府專賣口付紙卷煙草
朝日 大和
酢 醬油 瓶詰樽詰
菓子 罐詰色々
洋酒類
取次販賣

釀造發賣元
大阪府堺市九間町
北海道小樽湊町
臺灣臺北街書院
臺灣基隆街石牌
臺灣臺南街下南河
北海道函館區辨天町
清國遼陽城內西街
清國大連監部
清國牛莊灣東營口

宅合名會社
本店
小樽支店
臺北支店
基隆支店
臺南支店
函館出張店
遼陽出張店
大連出張店
營口支店

官製口付莨、文房具
和洋酒類
罐詰、菓子
藥品、雜貨
醬油瓶樽詰
防寒具、安價販賣
卸商
營口西北街
豊生洋行
(電話十三番)

大連揚汽車便 最新着
●清酒 白鶴
●北海道産 玉葱
其他雜貨色々
元神廟街
田中洋行

日用品雜貨
軍隊用雜貨
吳服太物類
化粧品類
陶器類
其外種々新荷着精々安價販賣
卸小賣
營口永世街百七十三號第二市場東側
石原商店

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)
スペシャルライト賣出し
スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり
スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり
釀造元 大阪朝日麥酒株式會社
營口發賣 關東公司雜貨部

工
營口元神廟前
飯塚工程局材料部
(電話百三十五番)
弊局土木建築材料品の各産地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道産松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、砕石、煉瓦等
一日本石炭數種

鮮魚
弊店儀雜貨專業之處今度業務擴張の上日本は勿論滿洲に支店を設け併て鮮魚の卸小賣充分勉强の上御用達可申候間倍舊の御用命被仰付度奉願上候
敬具

營口南永世街百廿七號
(一)森屋洋行
大連大山通り二丁目
仝支店
遼陽西門外
代理店 林洋行
奉天小西門外
代理店 米田洋行

御徳用
新荷着急告品
○食料罐詰○
○塩魚干魚鰹節○
○乾物色々○
○亀甲万印醬油○
○赤白味噌○
○菓子類数種○
○銘茶各種○
營口永世街警務課前南へ入ル
林屋洋行

御旅館
奉天
小西邊門內路北
茂林館
日本物品依托賣買幷ニ滿洲各産物毛皮類ノ求ニ應ズ
追テ
家屋宏壯接待優遇

奏議

欽天監奏遵擬天文算學章程摺

奏爲遵 旨酌擬欽天監天文算學章程恭摺仰祈 聖鑒事竊奴才等擬將國子監算學改爲欽天監天文算學並聲明未盡事宜另行酌擬奏明請 旨遵行於十一月二十日具奏本日奉 旨依議欽此欽遵在案伏查奴才等所管之算學設制之初纖極詳善歷年既久自應因時制宜庶於學務有裨奴才等悉心參酌謹擬章程三條敬爲我 皇太后皇上縷晰陳之一官制宜循定章也額設管理協理大臣各一員助教教習分教六缺擬仍照定章辦理至助教等員並茶皂等級應有領項均由欽天監照例支領其助教等摺紳暨京察等第均附隸於欽天監一印信關防宜改鈐換製也學中一切文件向係鈐用國子監印信今擬鈐用欽天監堂印助教關防文日國子監算學助教關防擬將原領關防咨行禮部繳銷改製文日欽天監天文算學助教關防未經領到以先暫刊木質關防以資鈐用一學生額缺宜量爲變通也原設八旗滿洲學生十二名蒙古學生六名漢軍學生六名向由奴才等所管之學行文國子監咨取各旗管官學生送學挑補算學生現在國子監既經歸併學部無從咨取今擬經行八旗滿洲蒙古漢軍都統咨取各旗閑散聽穎合格者送赴奴才之學挑補惟原設之額滿洲十二名蒙古漢軍各六名今分八旗挑補各旗之額未勻是以不敷挑取擬將滿洲每旗挑取二名共十六名蒙古漢軍每旗挑取各一名共八名作爲定額以昭平允所食膏火仍由各該旗照例支領至漢算學生十二名肄業生二十四名以及報滿均照向章辦理以上奴才等參考定章量爲變通如蒙 俞允即行知各衙門遵奉施行嗣後如有應行整頓之處隨時奏明請 旨辦理所有奴才等酌擬天文算學章程緣由是否有當謹恭摺具陳伏乞
皇太后 皇上聖鑒謹 奏請 旨奉 旨依議欽此

東京電報

●中日協約之發表（西一月十一日到） 中日協約刻已經彼我兩皇上批准日昨日本政府已發表其全文云

●澤公等到日之期 聞出洋大臣澤公等已到滬於西本月十五當赴日本門司埠云

●駐法日本大使之決定 前駐俄國日公使栗野君此次陞任爲大使前往法國駐任云

中外要聞

●新疆防守 日昨政府電告新疆巡撫速爲設立練兵學堂就近招考土人駐防其章程仿照京津各學堂規則辦理並飭該撫設法籌欵添募新軍以資防守

●調查軍臺名冊 茲聞政府議將歷年發往軍臺効力贖罪之員名立一底冊以備考核該員罪之重輕儻遇保奏易於調查 又據此事爲某邸提議因軍臺廢老之員有才幹者亦不乏人况值百廢俱興之際 朝廷需材孔急固應變通舊章辦理此事議妥即見明

●英使保護副領事 日昨英國駐京公使至外部會晤謂此次上海會審蹇由兩國少於礎商所致若定將副領事撤退實與體面攸關請仍以德維門暫居此任以觀後効如該員再有激烈等事本大臣必將該員撤任云云

●請廢書籍之妄奏 近聞有某侍郎奏陳科舉既停四書五經皆爲無用之物請飭一律廢棄令學者專意於學堂業務免致誤於趨向等語 兩宮覽奏頗有不豫之色即將原摺留中昨向某大軍機言及擬加該侍郎議處之咎云

●國子監移交案卷 國子監自奉裁併學部之後即由該監堂官將各項案卷檢查淸楚已於日昨委派司員移交學部接收矣

●東撫調汴消息 袁制軍日前奏對時密保楊士驤堪勝封疆之任請即簡授巡撫實缺維在山東署任內辦理一切交涉事務頗滋物議可改調他省俾得展其長才等語昨聞政府會議汴撫陳中丞擬准其開缺而即以楊中丞實授汴撫云

●補試朝考 聞禮部堂官定擬出示諭知各直省優拔生因丁憂等項事故未經赴部朝考後期續到玆有山東優廩陳文會赴部投文報到補考所有未經赴部考試者取具同鄉京官印結赴部携帶貢單投文報到本部會同學部聽候定期補考萬勿觀望

●學務需欵 聞學務處會議前因科擧已停諭飭各省學政管理學務各屬學堂歸其稽查各學使以學堂今始萌芽概行舉辦在在需欵而學使又無管理財政之權難於措手擬請學務處爲之特定權限聞學務處諸公於此事甚費週折

●工部請欵 聞工部日前具奏本部恭備 壇廟陵寢陳設祭器暨 東陵淑愼皇貴妃祭品宮殿毡簾等項欵目紛繁更樸難盡臣等深知帑項支絀凡事皆力求撙節萬不敢稍涉虛糜前由戶部撥發常年經費尙屬不符忽遇此項要差無從措手本年由戶部撥解銀七萬兩抵撥過銀二萬兩請 旨飭下戶部即將欠發之欵照數撥給以備要需

●嚴拿逆党 昨聞捷報處章京遞事由軍機處領下密秘各省五百里廷寄各一件隨有交片一紙署謂各省督撫嚴拿革命排滿之党羽聞直督袁宮保已派各道府州縣一律查拿毋任漏網云云

●搶刼案出 彰儀門內大街迤北地面時有聚集匪徒三五成群胆敢在路攔刼騾馬搶刼行人等情於日前有崇文門外某甲乘騾行至該處被刼搶去青騾一頭衣物等件即報知駐紮大兵隨即四面圍獲匪徒無踪有地面之責者即當剿辦以保本地安謐云云

●內廷消悉 聞內廷傳云 兩宮擬定於明歲元旦令節前往 頤和園駐蹕一節茲聞內務府迭次行文戶部轉飭咨催各省經費現當庫儲支絀不敷甚鉅該某堂官商之慶邸俟年前欵不解到擬先將戶部存儲抵欵暫行撥給以應要需云

●警部籌捐 警部尙書徐世昌氏奏稱廣西川省兵灾交迫庫帑支絀需欵甚殷奏請京師地面開辦鋪商各捐所有勸捐章程擬定條例仿照天津成案試辦俟籌有鉅欵再通飭各省一律開辦

●秘查巡捕 聞警部各堂諭飭稽查處密派委員於每夜間分往內外城暗仿各段以期考查各巡捕之勤惰

雜報

●營口演說會集議 本埠演說會之設已誌前報聞本日午後三鐘特約同人在火神廟內會商要公云

●鬼域伎倆 營口花世界中有彈絃之譚某劉某者前因爭某妓寮之絃成仇後稍解釋九月間劉某開設落子館請各名妓往捧場因以劇錢乃因劉某將收到之錢均入已囊各名妓不往因而關閉劉某疑係譚某唆阻銜恨入骨近日該館復開譚某之婦欲往表白甫經到園而劉某即嗾令兇徒用鐵尺等將譚婦腿打折腿骨燐燐外露劉某之弟向劉云此宗官司萬打不起須先將我腿打折好與抵賴劉某即將其弟腿打折噫青白日而有此兇徒逞鬼域伎倆云

●邊載集市叫行 埠內油坊糧棧今冬概無堆積凡油豆餅載未聞有批售行情惟邊外載車日來甚廣每上四五百輛昨聞於集市叫售市行元豆每斗市錢六吊二百文豆油每拾斤五吊六百文豆餅每片壹元參角云

●匯水漲落無常 近日埠內向外處會水銀迭行陡漲迭行陡落前數日向滬上會水銀與收主加色由壹百參拾餘兩迭次陡漲至壹百七拾五兩向天津會水銀與收主加色由二百四拾餘兩迭次陡漲至貳百八拾五兩近日復連次陡落滬上會水昨陡落至壹劉百貳拾九兩天津會水昨陡落至貳百四拾五兩矣前日向錦州會寶銀壹錠與收主加色陡漲至拾七兩二錢昨陡落至拾四兩四錢羌帖前迭漲至八錢八分五厘壹元昨陡落八錢四分一厘惟手票仍係七錢九分五厘換壹元近日仍未漲落云

●浴池暈而殞命 埠民有劉作霖者年逾而立移居埠外前日來埠在西街澡塘忽爾迷暈不起池主急爲拽出頭而酥甦若負重病賃車御送其家一夜不語至曙竟殞命云

●俄匪背勒剝衣 昨聞北來人云現下俄之馬匪等散處於長春府城內外任行肆虐入夜每以絲帶悄從身後背勒行人名之曰背死狗而行人不防其從身後驟撤其帶套於頦下轉背拽而疾走頃而咽喉氣塞縊斃剝去衣服遁矣被害者甚多官塲無可奈何因而商民人等相戒一入夜則不敢出門焉

叢談

●城隍夫人之遊歷 饒平紳庶其迷信神權之程度已達極點昨有東官鄉人設壇建醮恭請城隍巡止而代表城隍之降童人仰首大笑不止衆紳董俯伏於下請問笑所自來旣非粢盛之不潔亦非供奉之不虔久之乃云我大夫人二夫人未能偕來於余心有所不安然又不便出諸口此余所以付之一笑也衆紳以恐在城之紳頑錮不願夫人遊歷爲辭城隍大聲喝曰是孰敢是孰敢况在城諸紳均極文明現處開通時代女學大昌我必欲挈夫人同遊者正欲爲世界遊學之表率耳城神安有不從之理衆紳無已入城商於城紳果欣然從命噫是不禁爲饒平女界幸將來遊歷之風大盛不可不爲城隍夫人開一大紀念會也

●發狂婦女之活劇 嘉應西陽堡邱某以經商起家積貲甚厚近日華厦落成廣招賓朋設筵以宴届期到者不少不料入席時其婦忽然發狂戟指詈客言語不倫不堪忍受衆相顧失色只得收拾衣冠踉蹌散去後詢其人乃知此婦生平妒而且客此日見賓朋衆成擄案饕餮其心大不安樂又不敢下逐客令遂藉狂態發洩云可謂無奇不有

NEWCHWANG, FRIDAY, JAN. 12, 1906.

The previously announced private debate at Rev. Mr. Sprent's was opened with Dr. Phillips in the chair, at 9 o'clock last Wednesday evening by Rev. Mr. Webster. The speaker enlarged, at great length and with greater eloquence, upon what British newspapers have done to make the United Kingdom what she is to-day. He made a detailed reference to the founding of the Red Cross Society in the wake of the Crimean War, to the vigorous successful crusade against the slums, to the search for Mr. Stanley, the Explorer, and sundry other worthy enterprises, towards the promotion of which the British press has contributed so much, in the cause of humanity, social purity, and the progress of civilization. Mr. H. F. Bush supported Mr. Webster by dwelling on the press as an aducational instrument, and was followed by Mr. Van Ess, Capt. Sloss, Mr. Alway, and Mr. C. G. Bush.

Mr. Sammons, in opposing them, emphasized on the fact that journalism is a money-making venture. "In America," continued he, "all matter that is to appear on a journal must first serve the purpose of its investing capitalists, with the one aim to insure a circulation wider than its all too many formidable rivals. The consequences are that all sensational news is too freely ventilated in a reckless scrimmage for public favour, making it anything but wholesome reading matter. Besides, medicines or tonics of questionable medicinal value have secured a large unmerited sale at the expense of public health, principally through the medium of press advertizement." The debater produced copies of leading American papers to back each point of his arguments. "This evil tendency prevalent in American journalism," he went on, "must exist more or less all the world over. In former days, when there were few rivals for a journal to compete with, matters may have been much better. Most of the good things attributed to the British press by my opponent belong to the by-gone past. The present lies for discussion and the press of the world in general, but not only the British journals that, to do them justice, are the best. Therefore, I believe that daily press, as a whole, tends to injure more than improve society at large." Dr. Daly, Mr. Oudin and Mr. Moore ably seconded Mr. Sammon's side.

The Chairman then called for a vote. Rev. Mr. Webster's side won by the narrow majority of 14 to 12.

H. E. Viceroy Gen. Oshima has issued instructions under date of Dec. 12th., to the Japanese military authorities in Manchuria, with regard to the reburial of the remains of the Russian soldiers who have fallen on the field during the late war. It is stated in the instructions that all the Russian remains have been once interred with due courtesy, but that they should be gathered into the nearest Russian grave-yard, in order to facilitate applying repairs when it is necessary, and paying such attention as is due to the memory of the brave dead. Local authorities are ordered to institute a careful search for every spot outside the Russian cemeteries, at which the remains may lie buried, with a view to collecting them within the nearest Russian burial-ground, and erecting for each a conventional monument according to the rank of the dead. No cremation shall be resorted to in the procedure, except where there is a well-founded fear of spreading a contageous disease. In case of a cemetery being absent within an administrative district, the authorities shall make one anew for the above purpose. If the surroundings of some graves render it unadvisable to remove them, they may not be disturbed at all, but instead shall have a fence put up around the spot with the object of preserving its sanctity. The authorities are called upon to make out a minute record for each remains, containing, in the case of a removal having taken place, its location, and where and when they were reburied, and, in every instance, the number of the regiment the dead belonged to, the date of death, together with the name of each and the rank he held. If any of the enumerated items cannot be ascertained, a remark to that effect shall be entered on the record. It is further instructed that a full report bearing on the matter with an accompanying map, shall be sent to the Viceregal Office.

Mr. C. McAllum of the Customs is to be warmly congratulated upon his deserved promotion under date of the 5th. inst., to 1st. Assistant B.

A Tokyo wire informs us that the Japan-China agreements passed the Privy Council on the 6th. inst. and were published in all details on the 10th.

列車時刻
天津至北京 上 一、二〇 八、〇〇 下 五、二〇 六、四五
山海關至北京
唐山至山海關 上 七、〇〇 三、〇五 下 一、五〇 六、五七
山海關至營口
營口至新民
溝邦子至新民
天津 上午 前 一一、〇〇
大連 若 發 午前 七、三〇
旅順 一〇、四九
大石橋 若 翌前 一二、一〇

報
昨日の氣溫 最高溫度十六度五 最低溫度六度八

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館　第一營口ホテル　元神廟街九十六號

旅館　第二營口ホテル　河岸通り

料理　第三樓　元神廟街三十二號　店主　粕屋忠兵衛

料理　入船亭　永世街百八十三號　谷　初次郎

旅館　日營ホテル　河岸通り　店主　井上源吉

料理　東京館　永世街八十六號　店主　村上京四郎

旅館　東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三程

旅館　千代田旅館　永世街甲八十七號　店主　高橋きみ

料理　沖の島　永世街十八號　店主　中川彌三郎

料理　吉野亭　永世街八十六號　店主　坪田正好

旅館　竹村館　永世街二十二號（電話五一）　店主　麻田久二

旅館料理　高砂ホテル　高砂亭　西北街　店主片山小みつ（電話一四五番）

南洲旅館御用達商　濱田新之助　南永世街拾九號

旅館　彌生館　永世街百六十七號

料理　やよひ　永世街百六十七號　店主　宮下只七郎

料理　滿月　平野町百八十二號（電話一六二）　店主　青木勝恵

料理　滿洲樓　西北街二百五十二號　店主　直塚勝一

料理　萬梅　豊濟門街第百〇四號　店主　田島彌助

御料理　まんなをし　永世街字二本町二百五十九号　元吉田屋跡　店主　和田常松

料理　松酒家　元神廟街　矢野洋行向ひ　店主　山本壽三郎

旅館料理　醉花園

旅館　澁谷旅館　永世街百二十七號　店主　澁田留吉

旅館　大和館　永世街六號

料理　第二大和館　永世街百六十六號　店主　前田九一郎

料理　曙館　永世街平野町　營口座向

旅館料理　金城ホテル　永世街百六十六號　第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主　齋藤富次郎

旅館　東雲旅館　永世街七號　店主　谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館　東雲　主任　谷口今朝太郎

さるそば　第一更科　さるそば　第二更科　營口元神廟街　永世街鶴の湯角

琴三味線處　并に張替附屬品一切　永世街八十五號二本町角　土生　香樂堂

和洋御料理　第二東京館　元神廟街　店主　松田平四郎　東京一流　かき飯

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業　日營ホテル支店　主任　井上源吉

御料理會席　菊水館　主任　朝枝園揵

旅館西洋料理　遼陽館　主任　永瀬宇吉

旅館料理業　公陽館　主任　宮川秀基

御料理會席　末廣屋　主任　山根初之亟

御料理　色々應御注文　凱旋亭　主任　古谷庄太郎

旅館御料理　遼塔ホテル　主任　木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル　遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任　谷口今朝太郎

會席　玉家　主任　西野治三郎

御料理會席　來々亭　主任　石田清

營口永世街　營口印字局

弊店義開業以來御華客樣の御愛顧御引立に預り千萬奉謝候儲て今度遼陽に支店を設け旅館會席御料理相營み可申候間本店同樣御負最御引立の程偏に御願ひ申上候先は御禮旁ゝ御披露迄早々

營口元神廟街第百十三号　和洋料理　松月亭

遼陽城內西街百十七号　旅館　和洋料理會席　滿洲ホテル

御客樣各位

正札　特別廉價　雜貨　賣出し

一婦人髮道具一切及化粧品色々
一防寒シャツ手袋類
一靴下帽子類
一罐詰及履物
一小間物一切
一賣藥色々

質屋　永世街森病院隣　和清洋行　志田ます

喜久洋行

●白米●石炭●干魚●糯白米●水炭●鹽魚●建築用材木●洋釘●亞鉛板

營口永世街八十號　喜久洋行（電話百五十二番）

卸小賣致候間御用の節は電話又は端書にて御通知次第直に持參可仕候也

酒保品諸雜貨御商　神崎洋行　營口永世街甲百廿七號警務課前

▲其ノ外新荷着種々安價大勉强▼

倉庫業

倉庫位置

郵船會社碼頭ヨリ西二丁余商船會社碼頭筋向イ河岸へ半町ニシテ馬車ニ陸場ゲ便最適當ナル位置

營口綏定門街（公利窯）院內　新玉號倉庫部（電話一五七號）

東洋醫院　竹村旅館ノ側ヨリ河岸ニ通ズル横町ノ中央角（永世街十八号）午前宅診午后往診入院隨時　山田長

加藤洋行（SK）

酒保諸君急告

弊店儀今回酒保品全部相片付け度特別大見切賣致す可く候に付至急御來店の上御相談被下度願上候也

●麒麟正宗
●諸罐詰類
●巻紙、狀袋
●菓子、砂糖

其他諸雜貨一切取揃へ誠實を旨とし精々勉强仕る可く候間多少に拘らず御用命被下度奉願上候

銘酒　菊正宗　新着!!　營口明覽年定價にて差上ます

祝新年　雜貨商　營口の外內　加藤洋行（營口電話八十番）

本店　天津日組界　支店　營口　北京　出張所　遼陽　大阪

S. KATO & Co.
Hongname "Chah Tung."
Yingkow, Telephone No. 80.
Main Store.
Japanese Concession, Tientsin,
General Store-keeper & Commission merchant

爲替相場（一月十一日）
日本向　軍票百圓に付金九十圓
上海は　百圓に付六十七兩四錢五分
天津向は百圓に付二百〇八圓

日本品最近物價表一　加藤洋行調査
菊正宗	三斗九舛入	銀二十圓
麒麟正宗	四斗四舛入	同十七圓
[illegible]		同十五圓
鮨	四打入	同十三圓
ラッキヨ	五打	同十四圓五十錢
辛子漬	四打	同九圓五十錢
フキ全		同八圓
鷲ミルク全		同十八圓
寶來豆菓子類	百斤入	加藤洋行製二十六圓
滋養豆全		同二十五圓
酒茶藥	百三十斤入	同二十七圓

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription　4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.10 per 3 months.

本紙定價
一枚二付　銀四仙
一ケ月前金　銀八十仙
半ケ年前金　四弗八十仙
一ケ年前金　銀九弗六十仙